

目次

日本情報考古学会第21回記念大会開催の案内1	
日本情報考古学会第20回大会報告.....4	
会費納入のお願い.....5	
会報への広告掲載について.....5	

**日本情報考古学会第21回記念大会
の帝塚山大学(奈良)開催のご案内**

日本情報考古学会は本年で10周年を迎えます。これを記念いたしまして、第21回記念大会を下記のように開催いたしたいと思います。この第21回の記念大会では、2日目の26日に、「遺跡をめぐる時空間情報を読むー考古学GISの現状と展望ー(仮題)」と題しました記念シンポジウム、ならびに、特別記念講演を計画しております。10年間の日本情報考古学会の歩みをふまえ、また現在の遺跡情報を巡る趨勢を鑑み、今後の10年間の展望する大会にしたいと思います。この大会を通じ、日本情報考古学会が、今後の日本考古学における“情報”研究のリーディングポジションを担うことを、改めて各界に強くアピールし、その中軸の1つとして、GISを用いた時空間情報から歴史現象を読む手法や、そのための技術開発の研究を精力的にうち出して参りたいと考えております。

近年の発掘調査や遺跡研究を巡る動向は、遺跡に関わる膨大な時空間情報の渦の中で、少なくとも従来のアナログ的な情報の取り扱いでは対応しきれないことが明確になっています。この時空間情報を標準化し、多次元的なデータを管理・解析・公開する技術基盤としてのGISの存在は、考古学に限らず、多くの学問、研究領域で有

用性が指摘されています。かつてより日本情報考古学会では、このGISを用いた考古学情報研究にいち早く注視し、歴史を読むための情報技術として重視すると共に、多くの研究をこれまでの大会や論文誌上で扱って参りました。このような経緯をふまえ、10周年を迎えた今大会では、改めて考古学と遺跡情報のプロブレマティークを整理し、今後の新しい考古学のパラダイム形成の一翼を担うべく、活発に議論をお願いしたいと思います。多くの学会員、ならびに関心のある関係各位の参加をお待ちしております。

日時：平成18年3月25日(土)、26日(日)

会場：帝塚山大学学園前キャンパス

第21回記念大会実行委員長：横見博之
(帝塚山大学)

記念シンポジウム実行委員長：宇野隆夫
(国際日本文化研究センター)

25日(土)一般講演

26日(日)記念シンポジウム、特別記念講演

〈研究発表の募集につきまして〉

第21回記念大会におきましては、特にGISや遺跡・遺物に関連する時空間情報(形状情報・物質/物性情報)の管理や解析の技術、およびその解釈に関する研究、その研究の社会への還元、デジタルアーカイブなどにつきまして講演・発表をお願いいたしたく考えております。申し込みを頂きました内容につきましては、事務局ならびに大会実行委員会、理事会などを通じ、厳正に査読を実施させていただきます。改めまして、発表者に結果のご連絡をさせていただきたいと思っております。会員の方々のご理解とご協力をお願いいたします。

第21回大会、1日目の一般講演での発表をご希望の方は、

- ・発表題目
- ・発表者
- ・所属
- ・連絡先（※住所・電話・ファックス・電子メール）
- ・発表に使用する機器等
- ・発表要旨
（※研究に関する国内外の研究の現状（一般論ではなく、具体的に研究成果への言及をお願いします）、研究の新規性・独創性、結果の各界への貢献度や今後の研究の発展性などにつきまして、「400字」程度でわかりやすく具体的に記載してください。本学会は様々な研究分野の方が所属されておられますので、学際性にもご配慮いただけますよう、お願いいたします。）

を電子メール、ファックス、郵送のいずれかで以下の申し込み先までお申し込み下さい。

申込先：

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3
同志社大学文化情報学部 津村研究室内
日本情報考古学会事務局
Tel./Fax. : 0774-65-7664
E-mail : htsumura@mail.doshisha.ac.jp

申込〆切：平成18年2月10日(金)

なお、講演申し込みにつきましては、下記から申込用のフォームをダウンロードいただき、ご利用いただいても結構です。また、電子メールをご利用の方は、上記項目を記したファイルを添付してお送りいただいても結構です。よろしくお願いたします。

※申込用フォームダウンロード先

http://www.cis.doshisha.ac.jp/htsumura/kouen_mousikomi.doc

<研究発表の内容などについて>

1) 発表内容

GIS を中心とした考古学における時空間情報に関する研究、遺物・遺構形状の計測・評価技術、あるいはそれらのデータの分析、理化学的データの収集とその解析手法、考古学的事象をめぐるコンピュータ・シミュレーション、インターネットなど新たな通信基盤を介しての研究者間のデータ共有、多様な考古学的情報に関わる幅広い分野の学際的研究を募ります。

2) 発表時間

質疑応答を含んで、発表1件当り30分を予定しています。(発表件数などによって変更することがありますのでご了承ください。)

3) 予稿集原稿提出

予稿集原稿は **A4版で6枚程度**です。原稿の枚数を厳守の上、偶数ページに収まるよう作成下さい。原稿作成の詳細につきましては、発表申し込みの受理の結果と併せてご連絡させていただきます。また、予稿原稿には必ず600字程度の要旨(日本語・英語)、をつけて下さい。この要旨は、学会誌『情報考古学』に大会発表報告として掲載されますので、あらかじめご了承のほどをお願いいたします。

送付先：

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3
同志社大学文化情報学部 津村研究室内
日本情報考古学会事務局
Tel./Fax. : 0774-65-7664
E-mail : htsumura@mail.doshisha.ac.jp

申込〆切：平成17年3月3日(金)

4) 予稿集の編集について

ご送付いただいた原稿を直接写真製版いたしますので、筆者による校正の機会はありません。完全原稿を御提出下さい。なお、提出された予稿の原稿は、原則として返却いたしません。予め各自でコピーを保存して下さい。

5) 発表資格

発表者に一人以上の会員が含まれることが応募の条件となります。

6) 発表機材

OHP プロジェクタと液晶プロジェクタが利用できる見込みです。その他の機材が必要な方は、事務局に御相談ください。

<記念シンポジウムにつきまして>

本記念大会では、26日に記念シンポジウムを下記の要項で開催予定としております。会員の方々、ならびに関連の研究に従事されておられる方々、ご関心をお持ちいただける方々に、広くご参集いただきたいと思います。会員の方々には、周りの方々に広報いただけますと幸甚です。

1) テーマ

遺跡をめぐる時空間情報を読む

—考古学GISの現状と課題— (仮題)

◎ イントロダクション 実践考古学GIS

現状の経緯と課題を明確に

津村宏臣 (同志社大学 文化情報学部)

◎ 時空間情報の取得・管理編

遺跡時空間情報の取得について

宮原健吾 (財)京都市埋蔵文化財研究所

遺跡情報の標準化について

村尾吉章 ((株)日本IBM) ほか

空間データベースの構築と情報処理技術について

八重樫純樹 (静岡大学 情報学部)

情報の公開・共有について

藤田晴啓 (東洋大学 国際地域学部)

◎ 遺跡時空間情報の解析・処理編

先史(縄文)時代研究への適用

古環境復原と貝塚立地・分布解析と遺跡存在予測

津村宏臣 (同志社大学 文化情報学部) ほか

先史~中世(弥生・古墳・古代・中世)研究への適用

眺望分析と可視域連鎖のパターンについて

宇野隆夫 (国際日本文化研究センター)

古代研究への適用

時空間シミュレーションの視点と古代社会について

新納泉 (岡山大学 文学部)

◎ まとめと展望

情報考古学・考古学GISで歴史を読むということ

宇野隆夫 (国際日本文化研究センター)

◎ パネルディスカッション

司会：宇野隆夫・津村宏臣

パネラー：シンポジウム講演者

2) 特別記念講演

本記念大会では、シンポジウムに引き続きまして、かねてより考古学と情報研究に従事されておられる泉先生をお招きし、下記の特別記念講演をお願いいたしました。多くの方にご参集いただけますと幸いです。

GISと情報考古学

(仮題)
泉拓良 先生 (京都大学 文学部)

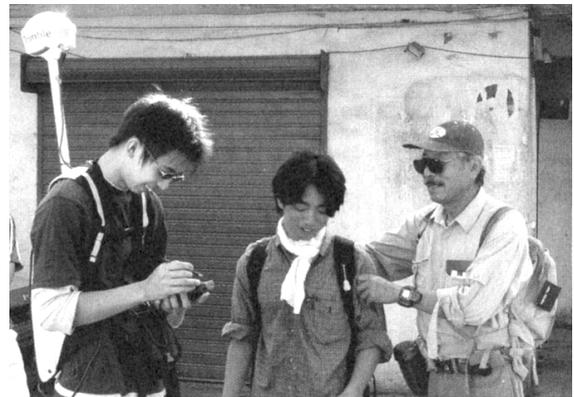
—泉先生のご紹介—

京都大学文学部教授 1948年 神奈川県生まれ。泉先生はかねてから縄文時代研究を精力的に進められており、近年では比較文化論的視野をもたれ、西アジア考古学の実践的研究も進めておられます。この中で、東京大学空間情報科学研究センターを中心に進められた『人文社会科学の空間情報科学』研究プロジェクトで、「考古学班」の代表として研究班を組織され、レバノンをはじめとする西アジア地域での遺跡調査を実施、各種の最新情報技術を駆使して、遺跡の情報取得から解析までの包括的な研究を推進されました。本記念講演では、特に、GISや3D-CADを用いた遺跡時空間のアーカイブに関する研究成果についてお話を頂く予定です。

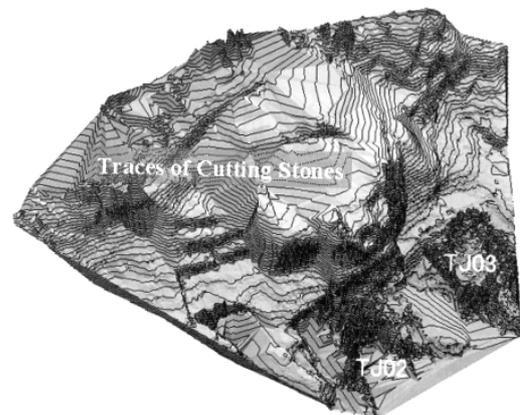
主な著書：『縄文時代の一万年』(集英社)

『倭国誕生』(日本の時代史、吉川弘文館)

「レバノン・ティールの遺跡分布調査」『西アジア考古学』第3号



DGPSによる遺跡分布調査風景(右：泉先生)



3次元レーザースキャンデータから作成された石切場遺構図

日本情報考古学会第20回大会報告

日本情報考古学会第20回大会は、平成17年9月23日(土)、24日(日)の二日間、関東学院大学関内メディアセンターにおいて、横浜国立大学、関東学院大学のご協力を得て、開催されました。大会において発表された研究内容は以下の通りです。

<第一日目>

研究発表1

小川司・八重樫純樹(静岡大学)
磐田市の遺跡情報を基とした位置情報の考察

研究発表2

竹内啓二
日葉酢姫出土鏡の考察 - 陵墓地形図との関連性から -

研究発表3

三辻利一(鹿児島国際大学)
三浦圭介(青森県埋蔵文化財センター)
藤原弘明(五所川原市教育委員会)
五所川原窯群の須恵器の化学特性とその伝播

研究発表4

大濱春代・中園聡(鹿児島国際大学)
多変量解析を用いた甕棺形態の地域性

研究発表5

寺村裕史(同志社大学)
古墳の築造場所選択と相互視認関係

研究発表6

中島睦夫
我が国の国家形成とその変遷

研究発表7

植木武(共立女子短期大学)
吉野諒三(統計数理研究所)
村上征勝(同志社大学)
千葉県縄文貝塚の晩期モデル作成

特別講演

安藤広道(慶應義塾大学)
日本列島の初期稲作技術を理解するために
- 東アジア的視点からの基礎整理 -

懇親会

<第二日目>

研究発表8

西村淳(函館大学)
前方後円墳の高さの規格(3)

研究発表9

河嶋壽一(龍谷大学)
坂崎賢・川村哲弘・山本利一(元 龍谷大学)
仏坐像の3次元デジタル復元への試み

研究発表10

白川真吾・今野晃一(岩手大学)
千葉史(株式会社 ラング)
3次元モデルに基づく石器剥離面の切り合い検出法に関する検討

研究発表11

石川正敏(島根県立大学)
奥村英史(ヒューマンオーク)
川西陽一(京都大学大学院)
原正一郎(国文学研究資料館)
人文科学のための地理情報共有システムの構想

研究発表12

河越彩子・中園聡(鹿児島国際大学)
弥生土器の遺構出土傾向 - 多変量解析を用いて -

研究発表13

川宿田好見・中園聡・三辻利一(鹿児島国際大学)
渋谷格(佐賀県教育委員会)
蛍光X線分析による弥生土器・甕棺の研究

研究発表14

津村宏臣・寺村裕史(同志社大学)
考古学・文化財科学における“情報”とはなにか
- 時空間情報科学としての理論化のPerspective -

特別セッション

『考古学者は情報科学者に何を望むか』

基調講演 1

考古学における空間分布と統計解析
桜井準也(慶應義塾大学)

基調講演 2

文化財科学情報のアーカイブと解析
建石徹(文化庁)

基調講演 3

考古遺物の分類における認知とデータ解析
中園聡(鹿児島国際大学)

基調講演 4

G I S と景観考古学
宇野隆夫(国際日本文化研究センター)

パネルディスカッション

『考古学と情報科学の新しいコラボレーションに向けて』

司会： 植木武(共立女子短期大学)

一般研究発表につきましては、次号以降の学会誌『情報考古学』に掲載の予定です。

「情報考古学」の発送と論文募集

本学会学会誌『情報考古学』の次号 Vol. 11, No. 2 は、次回大会時に刊行・配布予定です。多くの会員の方からの投稿を期待しております。投稿に関するご連絡および投稿は、下記の植木会誌編集委員会委員長までお願いいたします。

連絡先：

〒101-8433

東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

共立女子短期大学生活科学科

植木武(会誌編集委員会委員長)

Tel : 03-3237-2524

Fax : 03-3237-2692

会費納入のお願い

今年度、学会事務局を移転いたしました。その関係上、会計などの事務処理をよりスムーズに移行することなどを鑑み、本年度より新たに振り込み用の銀行口座を開設いたしました。また、当分の間、従来の郵便口座ならびに銀行口座も利用できる体制を維持いたしますが、近く全ての会計のための口座を統一したく考えております。本年度の会費未納入の会員の方につきましては、改めまして、下記口座の方に、会費 5000 円の納入をお願い申し上げます。また、領収書につきましては、事務局宛に請求をいただけますと、会費の納入が確認でき次第、折り返しお送りさせていただきます。

会員各位におかれましては、学会運営をスムーズに行うため、なにとぞ会費の納入にご協力をお願い致します。また会員数の増加も緊急の課題です。会員数倍増に向けご協力をお願い致します。

会費納入先：

銀行振込 (※こちらを優先的にお願いいたします)

振込先 南都銀行 京田辺支店

口座番号 普通 0301986

名称 日本情報考古学会事務局 津村宏臣

郵便振込 (従来の振込用紙もご利用いただけます)

口座番号 01040-2-30981

名称 日本情報考古学会事務局

会報への広告掲載について

日本情報考古学会報に、今後も継続的に広告を掲載し、会報の郵送費等に当てることができると考えております。会員の皆様もお心当たりがございましたら、ご紹介下さい。

日本情報考古学会会報 No.19

発行 日本情報考古学会

2006年1月24日

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3

同志社大学文化情報学部 津村研究室内

日本情報考古学会事務局

Tel/Fax : 0774-65-7664

E-mail : htsumura@mail.doshisha.ac.jp

日本情報考古学会大会申し込みフォーム見本

※下記のフォーム見本に従って必要事項をご記入いただき、学会事務局宛にE-mail、郵送、FAXにて送付ください。同封の別紙をご利用いただくか、複写いただいても結構です。よろしくお願いいたします。

発表者氏名(英語表記併記) <small>(複数の場合は全員)</small> 津村宏臣 Hiro' omi TSUMURA	
発表者所属(英語表記併記) <small>(複数の場合は全員)</small> 同志社大学文化情報学部 Faculty of Culture and Information Science	
講演題目 埋蔵文化財の時空間情報アーカイブと遺跡存在予測モデル	
講演題目(英語) Spatiotemporal information archive of cultural deposits for predictive modeling with GIS	
連絡先住所 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3 同志社大学夢告館 MK510	
連絡先住所(英語) Doshisha Univ., 1-3 Miyakodani Tatara, Kyotanabe-shi, Kyoto 610-0394 Japan.	
TEL/FAX 0774-65-7664 E-mail htsumura@mail.doshisha.ac.jp	講演に使用する機器 液晶プロジェクタ (PCは持参します)
発表要旨 現在、文化財行政機関では、所属官庁が遂行する“全庁(統合)型GIS”と呼ばれるデータ基盤に、文化財情報を格納することを含めた各種の対応を迫られている。だが、埋蔵文化財は時空間的に連続性があり、時空間離散型ポリゴンデータとしてGISに格納することは難しい。本研究では、既知の埋蔵文化財の存在に関する時空間情報とその環境属性情報から、未知の埋蔵文化財の Predictive Modeling を実施し、時空間連続型ラスタデータとして存在予測確率を評価する。・・・・・・・・	
発表要旨(英文) Today, many prefectural research institutes for cultural deposits are forced to take prompt measures toward the management with GIS. In this situation, the purpose of this study is to indicate a concrete method about archive of spatiotemporal information of cultural deposits and to practice the predictive modeling for expectation of the cultural deposits by multiple regression analysis. First, the GIS database was built about cultural deposits, Next its spatiotemporal information were corrected along a linear time scale, some correlations were calculated between location of cultural deposits and natural environmental information of its place, and at last, predictive hazard map was built with multiple regression analysis by using the above data. The verification of its reliability is very difficult, but we must try to do it through our everyday research.・・・・・・・・	

日本情報考古学会大会申し込みフォーム

発表者氏名(英語併記) <small>(複数の場合も全員)</small>	
発表者所属(英語併記) <small>(複数の場合も全員)</small>	
講演題目	
講演題目(英語)	
連絡先住所	
連絡先住所(英語)	
TEL/FAX E-mail	講演に使用する機器
発表要旨	
発表要旨(英文)	